

# 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

## 会員挨拶



能登町長 持木 一茂

ご苦労さまです。能登町長の持木でございます。

本日は、日本海にぎわい・交流海道ネットワークの講演会ということで、たくさんの方にお集まりいただきました。私のほうからも皆様方にごあいさつと、そして近況報告ということでさせていただきますというふうに思います。

能登町はといいますと、能登半島の北東部に位置しております。そして、北は珠洲市さん、輪島市さん、そしてまた南西は穴水町に隣接しております。東と南はといいますと、富山湾に面した海岸線が続いております。そして、その海岸線の大半が能登半島国定公園に位置づけられているということでもあります。

輪島市なんかの外浦の豪壮な海食景観に対しまして、富山湾に面する内浦というのは、柔和な沈水景観ということでもあります。そして、能登町には、港湾といいますと小木港と宇出津港の2港があります。

一つ目の小木港は、船凍イカを主体としました日本海側でも有数の沖合沿岸漁業の基地として栄えてきました。そして、近年では漁船の大型化が進みまして、県外船の利用もふえてきているということでもあります。当町の基幹産業であります中型イカ釣り漁業は、船内で急速冷凍することにより鮮度を保ちまして、能登ブランドということで全国に誇れるものというふうにも思っております。

また、この地域には「いかす会」と銘打ちましたイベントがあります。これは、小木港内にいかだのコンテスト、あるいはレース、そしてまた児童によりますイカのつかみ取り、また、多種多様なイカ料理などで、イカ尽くしということで、イベントが毎年この秋に開催されております。

また、小木沖で取水されております能登海洋深層水、これもようやくペットボトル化にこぎ着けました。この6月1日から商品化しまして販売しております。そして、このネーミングも公募しまして、たくさんの方に応募いただきまして、そのネーミングを「能登はやさしや水までも」というふうにつけさせていただきました。皆さんよく御存じのキャッチフレーズかなと思いますが、能登は土だけで

なく、水までもやさしいということで、このネーミングに決定させていただいております。今現在、全国にさらなる販路を求めながら努力しているところではありますが、石川県内でも、県庁のほうでも売店のほうで販売されているということなので、ぜひ皆さん方も一度ご賞味いただければと思っております。

そして、この小木港の南には宇出津港があります。この宇出津港では、水揚げされました寒ブリ、極寒の海で育ちまして、見事に油の乗ったブリであります。そして、このブリを利用して、冬の誘客食祭イベントとしまして12月には寒ブリ祭り、そして「起舟」の日には「しかたの風」というイベントを開催しております。当町にとれます鮮魚を中心に、約20の業者が集まりまして、特産品の販売や鍋コーナー等を設けまして、町内外からたくさんの方にお越しもいただいております。

この「しかたの風」というのは、磯から根強く、長く吹く西からの風ということで冬の間には吹く風なんです、豊漁をもたらす風というふうにされております。こういった「しかたの風」等、いろいろなイベントも開催しておりますので、ぜひ皆様方にもお越しいただければと思っております。

この日本海沿岸地域の発展を図るためにも、ぜひ、能登町としては微力ではありますがご協力もしていきたいというふうに考えております。

今後の日本海の発展、そして今日お集まりの皆様を初め、多くの方のご健勝でのご活躍、心からお祈り申し上げます、近況報告、ごあいさつとさせていただきたいと思っております。

どうもありがとうございました。